

1 テーマ

小規模のよさを生かし、ICTの活用を通じた「個別最適な学び」「協働的な学び」について

2 テーマ設定の理由または課題

(1) テーマ設定の理由

本校は、全校児童11名、単式学級(4年)、複式学級(1・2年、5・6年)の学級編成による、へき地1級、極小規模校である。

本校では、学校教育目標「自分らしさを輝かせる子」を掲げ、全ての教育活動において、自分らしさを大切にし、さらに磨くことで、将来予測困難な社会を生き抜くための「基礎的・汎用的能力」を育てていきたいと考え、キャリア教育を根幹に据えた一人一人を大切にされた教育活動を推進している。特に、授業においては、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの少人数、複式の授業改善を進めている。

複式学年別授業では、子供たちに直接指導できる時間が制約されてしまう。そのため、子供たちで学習を進める力が必要になる。そのために、ICTを意図的・計画的に活用することを通して、自分で学び、自分たちで学び合う子供を育成したいと考えた。さらに、学習したことを他校の児童と、ICTの活用を通して交流を図る授業を行うことで、自他の考えのよさを認め合い、学びが深まったり、広がったりすることを期待している。

これらのことは、学習指導要領が求める「主体的・対話的で深い学び」の視点からの少人数、複式の授業改善の追究と合致すると考えた。さらに、「令和の日本型学校教育」が目指す「全ての子供たちの可能性を引き出す『個別最適な学び』と『協働的な学び』の実現に迫ることができるのではないかと考えた。

少人数のよさを生かし、課題を追究していく授業づくりを通して、自分から「学ぶ意欲」や自分で課題を解決していく「学ぶ力」を育み、研究テーマに迫っていきたい。

(2) 課題

- ・自分の考えを表現し、自分で課題を解決する力を育むための「一人学び」の力が育っていない。
- ・一人学びで個々の学びを見取り、それをもとに学び合いにつなげることが難しい。

3 実践内容 第1・2学年

(1) ICTの活用を通しての他校の児童との交流

① 生活科1年「アサガオを育てよう」、2年「野菜を育てよう」の実践より

生活科の栽培活動では、1年生はアサガオの栽培、2年生は夏野菜の栽培とし、学年の発達段階や個々の経験値の差異、付けたい力の差異を意識して、異学年同内容異程度の授業を実践した。

両学年共、ICTを活用し、アサガオや野菜の写真を継続して撮り、観察記録にまとめた。それにより、花や野菜の変化や生長に気付き、新たな発見や疑問等を見つけることができた。

② 生活科「学校の自慢を紹介しよう」の実践より

生活科の1年生の単元「学校大好き」では、2年生が1年生に学校のことを紹介しながら学校探検をしたり、気付いたことを紹介し合ったりした。その後、「佐久間小学校の児童に浦川小学校の自慢を紹介しよう」という単元を構想した。初めに、浦川小のよいところや自慢を一人一人付箋紙に書かせ、全体で類型化し、紹介するテーマを明確化した。そして、発表に向けて、一人一人発表原稿作りに取り組んだ。最後に、リモート交流で、佐久間小学校の児童に学校紹介をした。

第1回学校紹介では、自己紹介をすることを通して、互いのことをよく知る機会とした。第2回学校紹介では、学校の魅力や行事などを紹介し、学校や地域の特徴をPRした。浦川歌舞伎を毎年発表していることや、学校近くの川で鮎釣りができるといった様々な魅力を挙げた。交流後は質疑応答の後、校歌をそれぞれ歌って締めくくった。感想発表では、佐久間小学校の児童から、「浦川歌舞伎を見てみたい。今度一緒に遊んでみたい。」という感想が聞かれた。

ICTを意図的・計画的に活用することで、学びが深まり、ねらいと内容、評価が一体となった単元構想(授業構想)を展開することができ、「個別最適な学び」「協働的な学び」につながった。



(2) 国語科を通してのICTの活用

2年生の国語科「あったらいいな、こんなもの」の学習では、ICTを活用し、学びの調整力を高めることができた。ジャムボードを活用し、初めに自分があったらいいなと思うものを絵で描かせ、設計図を完成させた。その設計図に、説明を簡潔に記入させた。次に、その設計図を見ながら、文章構成をし、音声表現を活用して文章を作り上げた。最後に、友達同士で発表し合い、互いの文章表現のよかったところや気付いたところ等を感想カードに書くことで、振り返りをした。その後、振り返りカードを見ながら、再度自分の文章を読み返し、修正する時間を設定した。これらの学びを通して、自分の書いた文章がさらに詳しくなったり、深まりが見られたりしたことで、学びの調整を図ることができた。

4 成果と課題

- ICTの活用を年間指導計画に位置付け、意図的・計画的に取り組んだことで、ねらい(目標)と内容(指導)、振り返り(評価)が一体化した単元構想(授業構想)を展開できた。子供たちも、様々な活用の仕方に慣れ親しみ、情報活用能力が高まった。
- リモート授業をきっかけに、学級活動は、ジャムボードの付箋紙を活用して「自分や友達のよいところを見つけて、もっと仲良くなるよう」の学習を試みるなど、国語科や生活科以外にも、ICT活用の幅を広げることができた。
- 今後は、他教科や学校行事、特別活動などに関連させ、ねらいや指導内容、評価を押さえたICTの効果的な活用を図っていきたい。

文責:丸山 里香